

新潟市暮らしの点検・評価アドバイザー会議におけるご意見への対応等

事業名：健幸になれるまちづくり推進事業

No.	ご意見	対応等
1	<p>・冬は歩く回数が減るので、体育館などでのウォーキングイベントが増えるといい。また、バスに乗らないと体育館等に行けない人もいると思うので、地域の中（例えばいきいき教室など）で、ポイントがもらえるようになると良いのでは。</p> <p>・西区では新潟大学の先生がウォーキング教室をやられているが、人気ですぐ満員になってしまう。そういったウォーキング教室を地域のコミュニティ協議会と連携を取りながら、出前教室のような形で、こまめに、より多くの人に参加してもらおう形を模索してほしい。</p> <p>・各小学校区にスポーツ振興会という団体があり、親と子どもと地域のお年寄りで丸一日歩きに行ったり、三世代運動会をやったりと、いろいろな催し物を小学校単位でやっているの、そのようなことも対象に入れると、大きなイベントに行かなくても、歩いてすぐ行けるのではないかと思う。</p>	<p>現在、ICTを活用した運動支援システムによりウォーキングなどの運動実践を促す「いきいき健康づくり支援事業（健幸サポート倶楽部）」を各区の体育施設を拠点にして実施しています。この事業では、歩数に応じて「にいがた未来ポイント」を付与しております。</p> <p>また、市内の体育施設でもウォーキングをはじめとした各種の健康づくり教室を実施しています。</p> <p>各区においては、コミュニティ協議会等とも連携を図りながら、身近な会場での健康づくりを支援しております。</p> <p>今後、地域の自主的な健康づくりに向けた取り組みを支援するため「地域版にいがた未来ポイント」を導入し、優れた取り組みを「健康寿命延伸アワード」として表彰していきます。</p>
2	<p>スポーツジムなどの健康関係の企業とのタイアップをさらに進めるべきである。健康に関心のある市民への企業のPRになるため、賛同する企業は多くいると思われる。また、公共交通を使う人にポイントを付与するのであれば、新潟交通などの増益につながり、企業のPRにもなるので、原資を新潟市で全て負担するのではなく、そういった企業ともタイアップを進めると良いのではないか。</p>	<p>未来ポイントでは、公共交通の利用を促すことで環境保全と健康づくりに寄与することから、新潟交通の協力によりバスICカードを付与媒体としています。将来的には、ポイント原資を負担いただけることを条件に、民間事業もポイント対象とする方向で検討していきます。</p> <p>健康関連企業には、健幸マイレージや健(検)診受診のインセンティブへの協賛をお願いしており、今後も継続して、連携していきたいと思っております。</p>

3	<p>40代、50代の男性はあまりこういったマイレージ事業に興味を持たないと思うので、「気がついたら歩いていた」というような何か別の仕掛けも考えられると良いのではないかと。</p>	<p>新潟市ではスマートウェルネスシティの考え方のもと「移動しやすいまちづくり基本計画」を策定し、過度にマイカー利用に依存することなく誰もが移動しやすいまちづくりを目指しています。この考えのもと、健康づくりのソフト事業とまちづくりのハード整備を連携させることで関心のない方も自然と健康になれるよう取り組んでいきます。</p>
4	<p>未来ポイント参加者に、アンケートをしてはどうか。「ポイントがなくなるとどうか」「なくなったとしても講座に参加するか」等を聞き、運動の動機付けにつながっているかを確認し、今後の事業の進め方を検討してはどうか。</p>	<p>未来ポイント交換券発券時に同事業が「体を動かすきっかけになったか」「1日60分以上、体を動かす生活をしているか」を聞くことで事業の評価を行っています。評価の手法については、今後さらに検討していきます。</p>
5	<p>未来ポイント事業は原資の用意が大変なのであれば、健康マイレージだけでもよいのではないかと。協賛企業から景品をもらうのであればあまり原資は必要ないし、市民は楽しみながら貯められるし、企業にとってはPRにもなる。</p>	<p>抽選で景品が当たる健幸マイレージと確実に商品券などに交換できる未来ポイントでは、市民によって参加しやすさが異なるため、当面並行して取り組みますが、今後ニーズを確認しながら、よりよい仕組みにしていきたいと思っております。</p>
6	<p>「ちょい塩生活」については、関心がない人やどうしたらいいかわからない人が多いと思うので、そういう人が知らないうちに減塩生活をしていたという状況をつくれるといい。具体的には、食品を提供する側（レストラン、食品を提供する人、スーパーなど）と連携し、減塩されたものが市民に提供されるようになると良いのではないかと。</p>	<p>市民が自らの健康管理を行いやすい環境づくりを推進するため、農家レストランなどの飲食店や、販売店と連携し“ちょいしおメニュー”の提供や試食体験などの取組を行ってまいります。</p>
7	<p>「ちょい塩生活」については、子どもの頃からの食生活が大事である。学校給食が非常にしょっぱいこともあるようなので、そのあたりを改善すると将来の減塩につながると思う。</p>	<p>小・中学校における減塩教育の取組を学校給食研修推進校を中心に行ってまいります。</p>

■その他参考意見

- ・頑張ってマイレージを貯めたら何かをもらえるというのは、モチベーションとして効果があると思うので今後も続けてほしい。
- ・新潟の冬は動くところがないので、冬の施設や、働き方、遊び方などのソフト面を改善していく必要がある。
- ・健康寿命の延伸のためには、お年寄り（特に独居老人、寝たきりの手前の人）をどのようにして外に誘い出すかが重要。この事業も誘引と

なるが、その他にも、地域のコミュニティの中で何か役割を持ち、本人が喜んで能動的に働くような、昔の村の社会のようなものを地域ごとにつくっていけると非常に良い。